

意見書案第 4 号

カジノ実施法案を廃案とすることを求める意見書の提出について

上記の議案を宗像市議会会議規則第 14 条第 1 項の規定により、次のとおり提出する。

平成 30 年 7 月 13 日

宗像市議会議長 花田 鷹人 様

提出者 宗像市議会議員 植木 隆信

賛成者 宗像市議会議員 笠井 香奈枝

提案理由

刑法で禁じるカジノを解禁すれば、ギャンブル依存症などの拡大で家族とその生活の破壊が生じることが十分予想されるため、カジノ実施法案の廃案を求めるもの。

提出先

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、法務大臣、総務大臣、経済産業大臣

## カジノ実施法案を廃案とすることを求める意見書（案）

安倍晋三内閣が、刑法で禁じる賭博場・カジノの解禁を具体化するカジノ実施法案を閣議決定し、今国会での成立を目指すとしていますが、国民のカジノ反対の意思は明白です。安倍首相が主張している、カジノが成長戦略の目玉などという誤った思い込みに基づく政策は、もう諦めるべきです。

安倍首相は、同法案の閣議決定に当たり、世界最高水準のカジノ規制という題目で決定された法案の中身として、安易なカジノ入場の抑制策とされた入場料を6,000円と東京ディズニーランドより安く設定し、入場回数制限は連続する7日間で3回、連続する28日間で10回と、事実上入り浸りを容認するものとなっています。3ヶ所とされたカジノ設置地域は最初の認定から7年後に見直せるとなっており、野放図なカジノ拡大に道を開くというものです。

カジノ問題を考える大阪ネットワーク代表の桜田照雄阪南大学教授は、カジノ賭博について「異次元の賭け事であり、途方もない金銭が費やされる」と指摘しています。

いま日本で、ギャンブル被害の最大の発生源となっているパチンコの場合、風俗営業適正化法で1分間に発射される玉数が制限されており、1日の営業時間中に最大限に負けても、その金額は31万2,000円です。ところが、カジノのバカラ賭博では1回1分足らずで終わる勝負が無限に繰り返され、最低限度の掛け金でも、パチンコと同じ時間で負ける金額は260万円にもなるといいます。失われる金額の大きさゆえに、カジノ解禁は、パチンコよりもはるかにひどい社会的悪影響を招くのは明らかです。

厚生労働省の直近の調査によると、日本でギャンブル依存症の疑いがある人は3.6%とあり、国勢調査データから推計すると約320万人に上ります。

この国に、最も人間の射幸心を刺激し深くのめり込ませる、最悪の賭博場であるカジノを新たに上陸させることが、どうして許されるのでしょうか。

カジノ誘致に名乗りを挙げている大阪では、先日、大規模なカジノ見本市が開かれました。米国のラスベガス・サンズなど国際的なカジノ資本が、いよいよ直接乗り出し、日本のカジノ解禁の指揮を執り始めており、カジノの無い国である日本への進出で、巨額の儲けを上げようと狙っています。

よって、本市議会は、国会及び政府に対し、カジノ実施法案を廃案とすることを強く要望します。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき意見書を提出します。

平成 年 月 日

福岡県宗像市議会議員 花田 鷹人